



卸勤務薬剤師会のページ

日本医薬品卸勤務薬剤師会 平成30年度「フォーラム」 会員発表の概要紹介

平成30年度「フォーラム」は、37都道府県から東京会場72名・大阪会場79名、関係者27名と合わせて178名の会員・関係者の出席にて開催した。

厚生労働省医薬・生活衛生局総務課薬事企画官 安川孝志様（東京会場）、薬局・販売制度企画室主査 小澤裕様（大阪会場）より「最近の薬事行政について」の講演をいただき、その後「地域における卸勤務薬剤師の活動について」をテーマにブロック会員発表を行った。会員発表の後、参加者を9～10グループに分けグループディスカッションとグループ発表を実施した。活発なディスカッションの後、全てのグループから発表いただき、全員参加のフォーラムを終了した。

以下に、ブロック会員発表の概要を紹介する。

演題1 岩手県支部における戻り品について ～管理薬剤師へのアンケートを実施して～

東北ブロック（岩手県支部）

東邦薬品株式会社 奥州営業所
千葉千香子



【目的・調査方法】

岩手県における「戻り品」についてのリスクや課題を把握する事を目的とし、県内の医薬品卸（6社27営業所）の管理薬剤師に対しアンケート調査を実施した。

【結果・考察】

- * 薬剤師の関与：大部分が検品等、何らかの形で戻り品に関わる業務に携わっていた。
- * 開封・中抜け品について：開封・中抜けを経験した営業所が7割以上あった。偽造医薬品流通防止の観点から、昨年施行された薬機法改正省令について自社内は勿論の事、お得意先にもご理解いただく事が重要である。
- * 保冷品の戻り品について：各社原則禁止としているが、営業所の8割以上が条件付きで受け入れていた。薬剤師としては品質・安全性の観点から戻り品の受け入れを完全不可としたいが、「受け入れ」「再販」の最終決定は営業戦略も絡むために上長が判断するケースが多く、ジレンマを感じる部分である。

* 包装変更について：包装変更が多く、確認や再販に苦勞している。メーカーに対し頻繁な包装変更を控えていただく事や、旧包装品の返品受け入れを要望したい。

生命関連商品である医薬品を取り扱う卸にとって『品質管理』は非常に重要な責務である。品質保全の観点からお得意先には各社の戻り品ルールをきちんとご理解いただき、出来る限り返品を生じさせない取引の推進を大いに期待したい。

演題2 卸勤務薬剤師が担う医薬品安定供給だけ ではない付加価値とは？

東京ブロック（東京支部）

株式会社メディセオ 調布支店
向井栄子



【概要】

医薬品卸売業は医薬品の安定供給を使命としているが、医薬品に関連する情報の提供や収集も重要な役割である。卸勤務薬剤師の業務は、医薬品の適正販売・品質管理以外にも能力を生かした業務が数多くあり、付加価値として一定の評価を得られている。今回は付加価値となる「DI業務」と「教育管理業務」、そして「各社独自の取組みへの関わりについて」の現状を東京支部管轄の8社の勤務薬剤師にアンケートを取り検証をした。

DI業務は薬局・診療所を中心に、医療用医薬品関連だけでなく様々なカテゴリーの問合せが数多くあった。苦勞していることとして回答が多かったのは診療報酬・調剤報酬関連、メーカーの問合せ対応、時間の創出であり、7割の薬剤師がDI業務が営業支援に貢献していると感じているという結果となった。

教育管理業務としてMSの継続研修は、現在でも8割が薬剤師による集合研修を行っており、MS以外の従業員にも7割が安全管理や適正管理等の研修を行っているという結果となった。

各社独自の取組みへの関わりについては、一社流通品目に関するサポート等会社が力を入れる取組みに薬剤師が積極的に関わる現状が伺えた。

今後、会社が力を入れる付加価値の部分での薬剤師の役割はますます大きくなることが予想される。日々の自己研鑽に努め、薬剤師である自覚と責任をもって日々の業務に取組むことが重要であると感じた。

演題3 卸勤務薬剤師が国体開催地で取り組んだスポーツファーマシスト業務の実例

四国ブロック（愛媛県支部）

株式会社アスティス 営業本部
縄田幸裕



【概要】

平成29年に愛媛県で「愛顔つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）」が開催されるに当たり、愛媛県薬剤師会が主体となって「アンチドーピング活動」を展開した。

卸勤務薬剤師としても医療機関・薬局等からの問い合わせ対応の増加も考えられたことから、日本アンチドーピング機構の認定する「スポーツファーマシスト」の取得者を中心として、早期からこの活動に積極的に関わり、問い合わせ対応にとどまらず各種の活動を実施した。

【取組内容】

- ・愛媛県薬剤師会 アンチドーピング特別委員会の委員としての準備活動（委員14名中、卸勤務薬剤師2名が参加）
- ・プレ大会、開会式、本大会各競技開催地におけるブースの設置、運営（プレ大会1箇所1名、本大会3箇所5名が参加）
- ・競技者、関係者等からの相談対応を行う24時間ホットラインのスタッフ（卸勤務薬剤師6名が対応し、91件の問い合わせ、相談に対応）
- ・問い合わせ対応の標準化を図る観点から「ホットライン対応マニュアル」の作成
- ・卸勤務薬剤師への直接の問い合わせ事例として「院内採用医薬品の禁止物質含有の有無のチェック」など

【今後の取組み】

国体という大きなイベントは終了したが、2020年に予定される「東京オリンピック・パラリンピック」や県内のアスリートに対する支援として今後も下記のような取組みに関与していきたい。

- ・医療機関、薬局、競技関係者からの問い合わせ対応
- ・県スポーツ協会との連携による「説明会等の啓発活動」
- ・学校薬剤師との連携による「薬物乱用防止活動での啓発活動」



グループディスカッション(東京会場)



グループディスカッション(大阪会場)